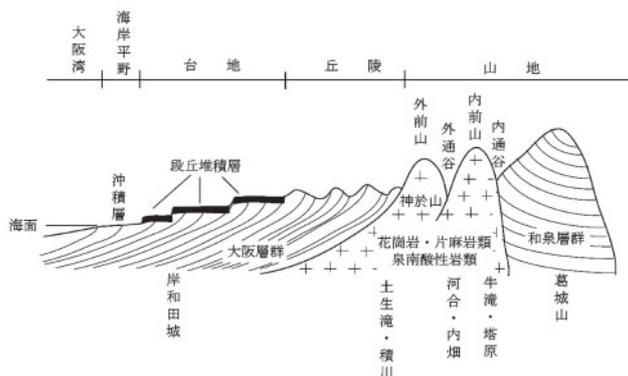


### 第3節 神於山自然再生区域の現況

#### 1. 地形及び地質

神於山は、海岸よりみて独立した山塊をなしており、南の通い谷は領家花崗岩類\*1(図1-3の神於山花崗岩類)の中を走る大きな断層線によってできており、この断層によって(海側から順に)外前山、内前山に明瞭に分けることができ、外前山の東端に海拔296.4mの神於山がそびえている。



#### \*1 領家花崗岩：

「領家」の名は天竜川中流の長野県領家村から出た名称で、この岩石の分布しているところは地質的には領家帯と呼ばれている。中央構造線ができた頃、花崗岩が古生層に貫入し、まわりの岩石に変成作用を起こすなどして変成岩になったもの。

泉南地域の地質断面イメージ図(提供：千地 万造 氏)

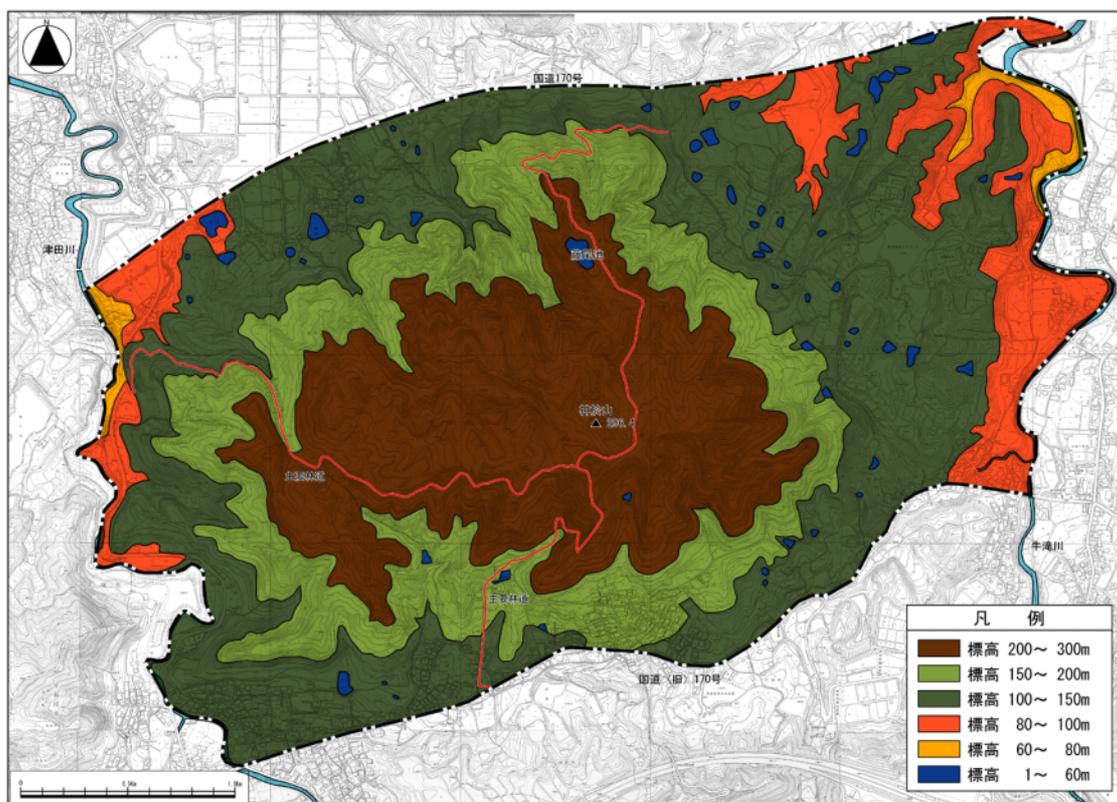


図1-1 標高区分図 「神於山(里山)植生調査業務(現況編)」岸和田市 2004/03

神於山南面の急斜面は、断層崖で断層に特徴的な「三角末端面<sup>\*2</sup>」を残している。浸蝕も進んでいるが分水嶺が南に偏っていること、岩質が堅い領家花崗岩類であることなどから、浸蝕に強く、北面に比べ谷の発達が不十分である。

北面は傾斜が緩やかで分水界が南に偏っていることもあり、相対的に長い深い谷が発達している。

西面は津田川が硬い領家花崗岩類でできている外前山を突き破って流れているため、傾斜も急で谷の発達も不十分である。また、津田川は蛇行し、渓谷美を呈している。

東面は西面と同じように傾斜は急で、特に南辺の断層崖に接する付近は急傾斜をなしている（図1 - 1、図1 - 2）

\*2 三角末端面：尾根が途中でナイフで切り落としたようにたち切られた切り口が三角形にみえる断層面

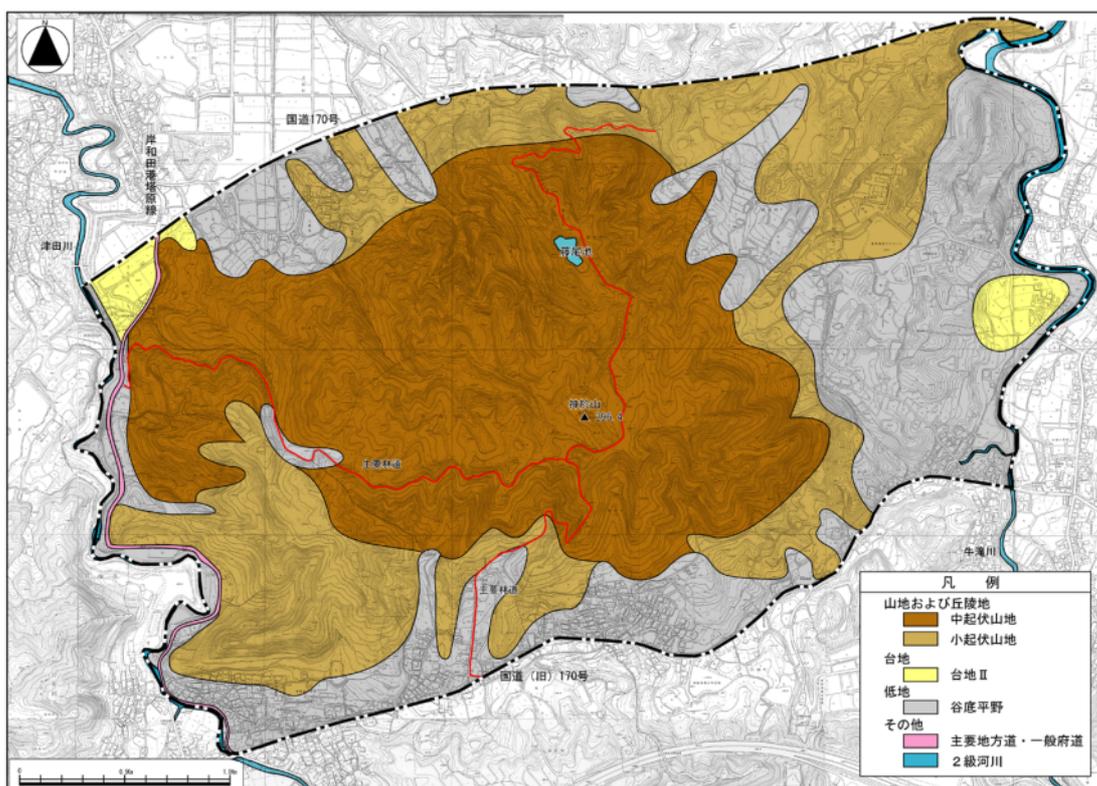


図1 - 2 地形図 「土地分類調査(細部調査)報告書」 岸和田市 2000 / 03

神於山の地質は、大部分が領家花崗岩類からなっている。  
 和泉山脈を形成している和泉層群と大阪層群が浸蝕された結果、これらの基盤となっ  
 ている領家花崗岩類が現れ、現在の神於山となっている（図1 - 3）。

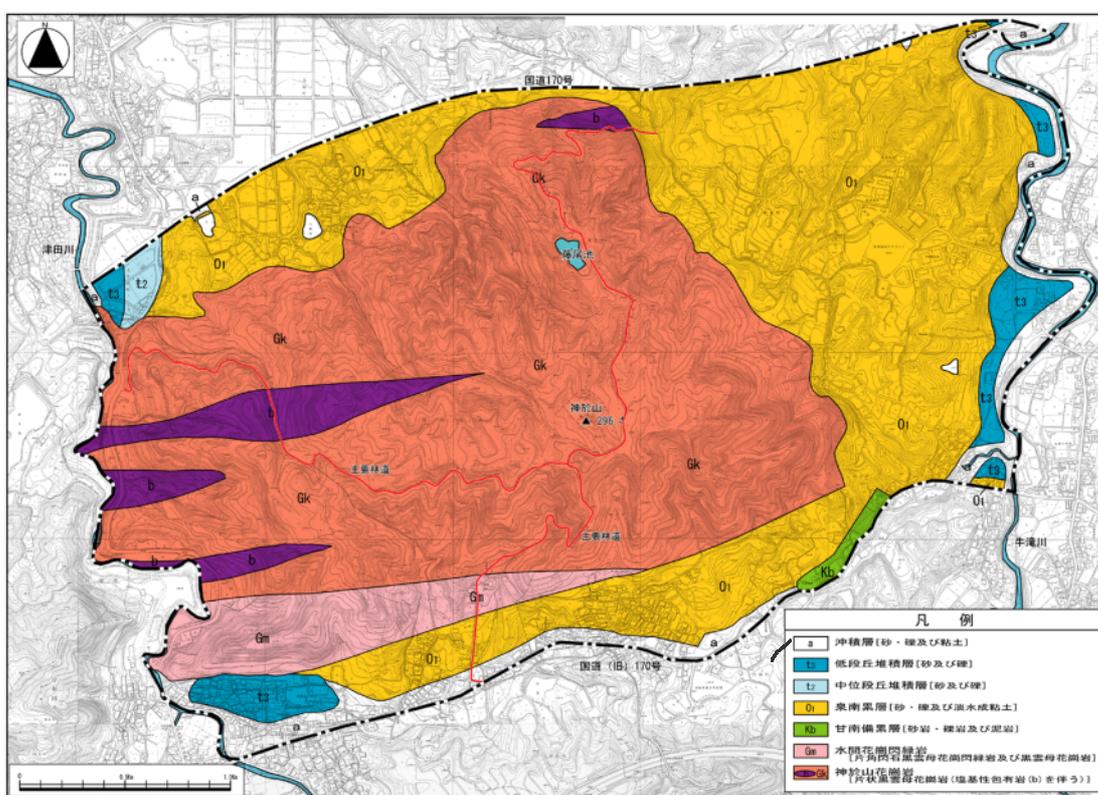


図1 - 3 地質図 「土地分類調査(細部調査)報告書」 岸和田市 2000 / 03